特定非営利活動法人
アーシャ
ASHA アジアの農民と歩む会

2020年度（第17期）年次報告

2020年度も、みなさまから温かいご支援をいただき、ありがとうございました。新型コロナ感染症拡大は、予想をはるかに超えて長期間にわたる影響を全世界に及ぼしています。半年間にわたるインド全土のロックダウンのために、当会は予定されていた活動の延期や中止を余儀なくされてしまうという事態にも直面いたしました。専門家が派遣できないところはリモートで、村に行けない時期は大学構内の伝習農場で活動するなど工夫して、様々な事業を前向きに行ってまいりました。

当会は、これからも、北インド・プラヤグラージを拠点としてサム・ヒギンボトム農工科学大学マキノスクールと協働で、持続可能な農業の普及、貧困家庭の子供・女性の教育支援、農村青年・女性リーダーの育成、女性の地位向上、栄養改善・母子保健改善、収入向上に関する事業を展開してまいります。

今後とも、どうぞ末長くご支援を賜りますようお願い申し上げます。

特定非営利活動法人 アーシャ＝アジアの農民と歩む会　代表理事　三浦　孝子

２０２０年度（第１７期）事業報告 （2020年4月1日から2021年3月31日まで）

プロジェクト統括責任者　三浦　照男

インド全土でコロナ感染拡大が収まらず、2020年3月20日より施行されたロックダウンは半年以上に及びました。そのため、いくつかの計画は延期、活動スケジュール修正を余儀なくされました。特に、村での集会や訪問、村からボランティアやスタッフの通勤に多大な規制がかったことで10月下旬まで活動に大きな支障をきたしました。

民間団体からの助成金に加え、外務省日本NGO連携無償資金協力の資金が得られて、多岐に渡る活動は広がりを持つことができました。 事業の中核を成す農村女性の人材育成と収入向上、大豆栽培と加工事業、モリンガ関連事業、縫製関連事業を実施し、さらに、インドと日本で製品の販売拡大と市場開拓を進めることができました。

このように危機的な状況があった一方で、資金的拡充もあり、全体を鑑みれば、事業目標や活動内容を大きく変更することなく遂行できた。国内外の支援者、協力者に深く感謝を申し上げます。

Ⅰ．特定非営利活動に係る事業

１．農村開発・農業開発支援事業
持続可能な農業・農村開発・収入向上事業

1-1 貧困農民のための収入向上活動事業

- アラハバード有機農業組合（AOAC）は、コロナ禍で物流が滞り、取引先のレストランやホテルが休業し、在留日本人の多くが帰国したため、販売量は3分の１程度に落ち込みました。

  この状況を打開するため、AOACスタッフと連携し、個人消費者や地元消費者の発掘を行いました。また、組合に参加する農家も自主的に市街地で野菜の直接販売を行いました。

- 農村女性によるNGO アーシャ　ビカス セワ サミティ（AVSS）の実施するモリンガ、大豆および野菜の栽培とそれらの加工、販売の協力・支援を行いました。
- 農村女性による生産グループ　アーシャ ビカス シャクティ（AVS）が製作する手工芸品の　デザインおよび縫製技術の指導、新製品の開発、販売促進を支援しました。

２．人材育成支援事業

2-1　持続可能な農業・農村開発コース(SCSAD)
運営支援および研修所の環境向上

インド、ミャンマー、日本からの学生の受け入れ、短期研修コースともに、休止しました。

2-2　僻地農村学校の自立運営に向けた総合的教育支援事業

アーシャ学校のマエダ校の児童への奨学金助成、校舎の修繕等を支援しました。特別学級の支援は休止しました。

2-3　裁縫学校の運営支援、裁縫によるフェアトレード製品の開発支援

アジア生協協力基金「北インド農村女性の自立支援のための手工芸品マーケティングシステムの確立と生産・技術能力向上事業」の2年目として、縫製技術の向上と上質な手工芸品の開発に取り組みました。

コロナの影響を受けて専門家の派遣は見送りましたが、オンライン研修により商品バリエーションを増やすことができました。

また、農村の基礎裁縫クラスの研修にマスク縫製技術の習得を組み入れ、研修生が緊急支援事業で配布するマスクを製作しました。

2-4 農村保健衛生改善支援事業

味の素ファンデーション「北インドと日本をつなぐ食を通した栄養改善プロジェクト」の2年目として、農村女性によるモリンガ栽培、モリンガ粉末の加工による収入向上と組織強化、住民の栄養向上活動を促進しました。

ロックダウン期間中、シニア農村保健ボランティア（SVHV）やスタッフが農村の小規模生産グループ（SPG）への指導巡回が実施できず、獣害も続出したことで、モリンガ生葉の収穫は少量でした。一方、マキノスクールの農場では20アールの面積でモリンガ生葉800キログラムの収穫があり、間作により多種類の野菜、大豆等の穀類も収穫できました。収穫したモリンガ生葉で乾燥粉末の加工を行いました。

11月と1月、SVHVが農村を巡回して、SPGとその周辺住民にモリンガ栽培の紹介、栄養料理デモと試食のセミナーを開催しました。3月には幼児の身体測定を実施し、栄養改善の経過を調査しました。

2-5 農村女性所得創出・地位向上支援事業

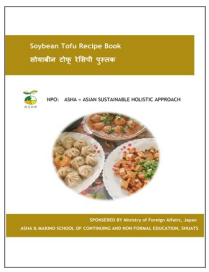
外務省・日本NGO連携無償資金協力事業「大豆の栽培・加工を通じた農村女性の所得創出 -栄養改善と地位の向上を目指して- 」を2020年3月より開始しましたが、その半月後にロックダウン令が施行され、10月まで事業対象村での活動、特に集会や訪問は困難になりました。

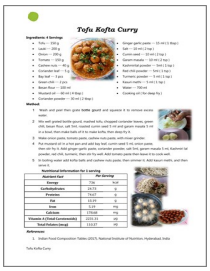
ロックダウン期間中も、マキノスクールの施設や農場において農村普及ボランティア(VEV)育成の研修、大豆栽培の実習を行い、6名を育成しました。

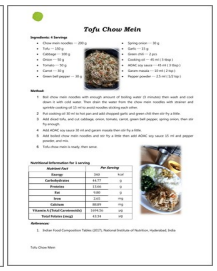
一方、農村の小規模生産者グループ(SPG)による大豆栽培は、遅れて1月下旬から9か村の15 SPGにて約2ヘクタールに在来種と日本種の栽培を開始しましたが、病害虫、野生動物の被害が甚大でした。今後、その対策を講じる必要があります

マキノスクールの農場で収穫した大豆を用いて豆腐を手作り製法で作りました。在印日本人の料理人を講師として招聘し、インド人に受け入れられる豆腐料理の開発を行い、9か村で豆腐料理の紹介・試食を行うセミナーを実施しました。また、村の食堂の料理人に豆腐料理を紹介したことで、結婚式で豆腐が使われるようになりました。

大豆栽培や組織化の小冊子、開発した豆腐料理を紹介するレシピ本やビデオを英語とヒンディー語で制作しました。　広報ツールとして活用します。







3．事業を推進するための調査研究及び、啓発・広報事業

3-1　ワークキャンプ・スタディツアー、訪問者受入

インターンシップ研修プログラムを3月に計画しましたが、コロナ感染拡大のため中止しました。12月と2月、インド・ビハール州で農村の自立支援に取組む日本のNGO関係者と事業地の農民を受入れ、農村見学、農民同士の交流会を実施しました。

3-2 会報の発行

アーシャの活動、およびマキノスクールのプロジェクトの活動を会員、支援者に理解していただくために、年3回（4月、8月、12月）、会報『アーシャ』を発行しました。

3-3 ホームページ等での広報

アーシャの活動を広く一般の方々に知っていただくため、ホームページの更新を行いました。

3-4　日本国内における学生・市民のためのセミナー及び講演の企画、主催、参加

代表理事が講師となり、栃木県内でセミナー、講演会を3回、栃木県外の講演ではオンラインで1回実施しました。

3-5 次期事業形成調査

日本における技能実習を促進するため、来日前の優良人材の供給体制強化、来日中の実習生との共生社会実現、帰国後の実習生の生計向上支援を組み合わせた事業について検討しました。

4．災害や紛争などによる被災住民への緊急支援事業

インドのコロナ感染が拡大する中で最も弱い立場にある貧しい農村の住民、その中でも子どもや女性を守るため「マスクを届ける募金」を実施しました。当会が支援する農村の基礎裁縫教室において研修を修了した農村女性がマスクを製作し、アーシャ学校の生徒や先生、事業地10か村の低所得家庭の子どもや女性にマスクを配布しました。

Ⅱ．その他の事業

1．バザー・チャリティ・販売事業

インドでは、在留日本人が一時帰国し、観光客もなく、帰国者向けに開発した土産用の手工芸品等の需要が突然変化しました。主な取引先の閉店、運送手段が途絶える等、多くの要因が重なり売上は減少しました。12月以降、都市部のイベントや市内の朝市などで販売支援を行い、当会の活動の認知度向上に努めました。

日本では、緊急事態宣言により販売店は営業自粛、イベントやバザーは中止となりました。インドのロックダウンにより国際郵便が休止となり、10月まで商品が届かない事態となりました。その中で、栃木県内のイベントで展示販売を続けました。10月以降、国際郵便は回復し、手工芸品やモリンガ粉末を届くようになり、東京、千葉、岐阜、栃木県内の販売店へ商品を提供しました。

日本では脱中国依存や海外に行きたいが行けなくなった人たちがフェアトレードのインド産商品に興味を持つようになりました。取引先と相談しながら商品開発を行うとともに、インターネットで購入できる仕組みの準備を始めました。

2．食品加工事業

インドから輸入したモリンガ粉末を小分けしてシーリングし、ラベルを貼付する加工作業を行いました。また、モリンガ粉末とヒマラヤ岩塩の粉末をブレンドしたモリンガ塩の加工作業を行いました。

3．演奏会、展示会、図書出版等の文化事業

栃木県、神奈川県において北インドの活動風景の写真の展示会を行いました 。

2020年度（第17期）活動計算書　（2020年4月1日から2021年3月31日まで）

Ⅰ 経常収益			
受取会費		293,000	
受取寄付金等		1,240,386	
受取助成金等		13,090,661	
事業収益		1,264,223	
その他収益		2,290,665	
経常収益計			18,178,935
Ⅱ 経常費用			
1. 事業費			
(1) 人件費	6,299,200		
(2) その他経費	7,188,715		
事業費用計		13,487,915	
2. 管理費			
(1) 人件費	465,473		
(2) その他経費	1,527,317		
管理費用計		1,992,790	
経常経費計			15,480,705
当期経常増減額			2,698,230
Ⅲ 経常外収益			
経常外収益計			72,606
税引前当期正味財産増減額			2,770,836
法人税、住民税及び事業税			123,600
当期正味財産増減額			2,647,236
前期繰越正味財産額			7,270,030
次期繰越正味財産額			9,917,266

2020年度（第17期）貸借対照表　（令和3年3月31日現在）

Ⅰ 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	11,554,531		
未収金	62,720		
棚卸資産	339,679		
前払費用	814,117		
流動資産合計		12,771,047	
2. 固定資産			
(1)有形固定資産			
有形固定資産合計	5,000,001		
固定資産合計		5,000,001	
資産合計			17,771,048
Ⅱ 負債の部			
1. 流動負債			
短期借入金	691,780		
未払金	2,803,268		
未払法人税等	124,900		
前受補助金等	4,228,702		
預り金	5,132		
流動負債合計		7,853,782	
2. 固定負債			
固定負債合計		0	
負債合計			7,853,782
Ⅲ 正味財産の部			
前期繰越正味財産		7,270,030	
当期正味財産増減額		2,647,236	
正味財産合計			9,917,266
負債及び正味財産合計			17,771,048

p4

アーシャを応援する

ボランティア活動に参加する

国内では各種イベントなどをお手伝いいただける方を募集しています。また、現地でもインターンを募集しています。是非、お問い合わせください。

フェアトレード商品を購入する

フェアトレード商品をご購入いただくと、売上が商品を生産した農村女性に還元されます。

モリンガパウダー・モリンガ塩・ヒマラヤ岩塩

モリンガは90種類以上の豊富な栄養素を含む食と健康を支えるスーパーフード。ヒマラヤ岩塩とブレンドしたモリンガ塩もあります。

ハンディクラフト商品

特定非営利活動法人
アーシャ
ASHA
アジアの農民と歩む会

特定非営利活動法人
アーシャ＝アジアの農民と歩む会
〒329-2703
栃木県那須塩原市槻沢83-17
TEL： 0287-47-7840
FAX： 0287-47-7841

アーシャの会員になる・寄付をする

アーシャの活動は、会員の年会費、支援者の寄付金、政府系や民間の協力基金の助成金などを有効に活用して運営しております。助成金は、期間・使途が限られますので、持続的な活動は、皆様の末長いご支援により成り立っております。

会員へのご入会をお願いいたします。

＜年会費＞

○正会員	1口	￥5,000 /年
○賛助会員	1口	￥3,000 /年
○終身正会員	1口	￥50,000
○終身賛助会員	1口	￥30,000
○団体正会員	1口	￥20,000 /年
○団体賛助会員	1口	￥10,000 /年
○終身団体正会員	1口	￥100,000
○終身団体賛助会員	1口	￥50,000

年会費・寄付の振込先

＜ゆうちょ銀行 電信振替＞
口座番号：00160-0-315147
口座名義：アーシャアジアノノウミントアユムカイ

＜ゆうちょ銀行 通常払込＞
記号：10700　　番号：20520001
口座名義：アーシャアジアノノウミントアユムカイ

＜他の金融機関から送金＞
金融機関名：ゆうちょ銀行
　　○一九（ゼロイチキュウ）支店
預金科目：当座　　口座番号：0315147
口座名義：アーシャアジアノノウミントアユムカイ

最新情報は以下をご欄ください。
アーシャ・ホームページ：
http://ashaasia.org/
アーシャ・Facebook：
http://www.facebook.com/asha.asia.page

サム・ヒギンボトム農工科学大学
継続教育学部（MSCNE）ホームページ（英語）
http://mscne.org/